



全体的な感想

私は今回ブルネイにあるブルネイ・ダルサラーム大学に留学しました。高校の時や大学に入ってから短期語学留学などで海外に出る機会 was ありましたが、個人で留学として海外に出るのは初めての体験でした。最初こそは生活の中で英語を使うことが苦痛で普通の生活を送ることすら大変だったのですが、留学を終え帰国する際にはほとんどストレスなく英語での生活を送れていました。

学面に関しては、英語での授業は不慣れなこともあって苦戦しました。授業を受けるだけでは理解が及ばないので授業時間外での勉強も必要でした。ただ、ブルネイ・ダルサラーム大学は国際交流に力を入れていることもあって、英語は聞き取りやすいものでした。

履修科目

AW-1202 INTRODUCTION TO ENVIRONMENTS AND ENVIRONMENT ISSUES (4 単位)

AW-1304 TOURISM: CONCEPTS AND MODULES (4 単位)

ELEMENTALY MALAY LANGUAGE (4 単位)

授業から学び得た専門的な内容について

まず、私は地学分野に属しており UBD でも自分の分野の講義を履修しようと考えていたが、あらかじめ履修を考えていた講義の全ては履修できないとわかったので地学分野は1つ、残りを環境とツーリズム、マレー語学に当てた。しかし唯一履修していた地学の講義はテスト期間に食中毒にかかり単位を習得するにはとても厳しいことになったので、単位の取得を諦めてしまった。環境の授業では主にブルネイに関連した地形について講義が進められた。海洋や泥炭地系、マングローブをメインで行ったのだが、地学の知識として知っていたものがベースにあったので授業内容について理解しやすかった。泥炭地からの炭素放出が温暖化へ関与するなど新しい発見があった。ツーリズムに関しては、予備知識が全くない状態でのスタートでどのようなことを学ぶのかさえわからなかったが、旅行というものをあらゆる方面からみると面白い分野だった。フィルムツーリズムという旅行と映画との関連を学ぶ会では、現地の映像会社まで訪問しインタビューをしたりと課外を通して映像制作の必要性を知る事が出来た。マレー語の授業では専門的な内容という少し的外れかもしれないが、マレー語を学ぶ事でブルネイの文化や環境をより知る事ができた。新しい言語を学んだことによって情報の幅が広がったと感じている。

自らの専門分野との直接的または間接的な関連性について

今回自分の専門分野以外の科目として環境とツーリズム、マレー語を履修した。環境とツーリズムに関しては自分の専門分野である地学と大きく関連性があり、学んでいく中で自分の知識を通してより深く理解できる部分も多くあった。逆にこのような場面で地学が生きてくるのかと発見する部分も多かった。マレー語に関しては直接的な関連性はないものの、これまでに何度か海外を体験して思うことの一つとして、その国で使われている言語を学ぶことによってその国の衣食住などをより一層深く知る事ができるというものである。マレー語を履修した事で実際により多くの友人関係が持てたことと、それとなくブルネイの自然環境のようなものに深く関わった気がする。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点

日本の大学と授業形態も異なる上に、英語で進められる授業ということで普段通りに受けてはいけないという気持ちを持ってはじめてから挑んだ。特に自分の意見を主張すること、わからないことは聞くこと、英語ができずとも恥ずかしがらないことに注意しながら授業を受けた。各授業について友人を作るということも心がけていた。真面目に授業を受けていても理解は他の学生に及ばないので友人に毎日のように質問をしていた。日本ではあまり起こりえない変更等も起こり、それらを口頭でアナウンスする際も聞きもらしがあるとその都度友人に聞いていた。